

WACATE ワカテ マガジン Magazine Vol.29

🌸ご挨拶🌸

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。
WACATE-Magazine 編集部です。



八重桜と新緑が美しかったので撮影しました。
桜もすっかり葉桜になり、
新緑がまぶしくなってきましたね♪

今年もまた暑くなりそうですね。
夏の三浦はさらに熱くなりそうです！

さあ、WACATE 2011 夏の募集が開始されました！

編集部員もドキドキワクワクしながらの
WACATE-Magazine vol.29、
はじまるよー！

🌸お品書き🌸

【特集】

行ってきました！SQiP ミニシンポジウム！

【コラム】

ワカテにキク。

【リレーコラム】

Software Test Topics

【雑談すぺしゃる】

てすバナ語るっcha!

【連載】

ミュージカルに恋して

【コラム】

日々撮影

【リレーコラム】

WACATE-Blog 出張所

【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

【連載】

今月のSTAR☆

【あとがき】

🌸WACATE Topics🌸

WACATE 2011 夏の募集を開始しました！

WACATE 2011 夏の講師陣が決まりました！
残り1枠は間もなく公開！
お楽しみに！

現在鋭意コンテンツ作成中♪

行ってきました!

SQIP ミニシンポジウム!

◆◆◆ SQiP ミニシンポジウム ◆◆◆

なんと、SQiP初のミニシンポジウムがあるということで行って来ました!
しかも案内を見るからになんとまあ豪華な登壇者!しかも金額は無料!
これは行くっきゃない!とゆーワケで行って参りました、千駄ヶ谷!

サブタイトルはなんと

「~これからの品質技術者の育成~」

これからを見据えるために、有難く拝聴してまいりました!

◆オープニング

◆鷺崎 弘宣氏

震災により多くの方が大変な思いをされていますが、我々にできることは何かと考えたときにソフトウェア品質を考えていく、明日を担っていく方の育成、そう考えました。

なので、本ミニシンポジウムは「中止」ではなく、「延期」にさせていただきました。

ソフトウェア品質管理研究会は他に類を見ないユニークな研究会です。
相互に競い、発展していく場にしたい。

05月:例会

特別コース臨時会

06月:例会

07月:中間報告会、合宿

08月:

09月:ソフトウェア品質シンポジウム SQiP2011

特別コース臨時会

10月:例会

11月:例会

12月:例会

01月:例会

02月:成果発表会、表彰

考えることと実践すること、両方を徹底的に実施していく。一年間かけてやっていく。

やみくもに何かをやるのではなく、まず、テーマについて考える。

最終的に論文にして発表する。

一年間やってきたことをありのままをお見せしたい。
そして、これからのソフトウェア品質技術者をどうするか、を考えていきたいです。

◆感想

とても丁寧な説明の中に熱い気持ち垣間見える、そんなオープニングでした。

そして鷺崎先生の話が終わると、司会の堀田文明氏に呼ばれたのは我らがアニキ。登場です。

◆品質にまつわる最新動向と研究紹介

-Respect&Influence-

◆細川 宣啓氏

2010年度テーマ「品質を考え抜く一年」を考え抜いた結果、SQiP研究会第3分科会、レビューをさせていただきました。

永田さんからスライドを預かってきました。
永田さんは品質やリスクを考えている。

千年に一度のリスクを想定できるか?
われわれはここから何を学ぶか?

研究会が終わってから3.11が来た。
どこまでリスクを呑めますか?
未曾有の危機です。
これをどうしていくか。
欠陥をどこまで考えるか?

永田さんのスライドが終わったところで、何とロンドン出張中の永田さんとskypeでお話!
ロンドンはなんと朝5時!

・永田 敦氏

本当は皆さんの前で話すべきだったのですが、すみません。
皆さんに是非SQiP研究会でやってきたことを議論していただきたいと思います。

震災は他人事ではない。
千年に一度の大災害にトラブルが起こった。
千年に一度のために数十メートルの防波堤を作るのか?

それを我々はどう考えるのか。

そんなことは起こらないから考える必要はないだろう、と大津波を設計に加えなかった。歴史を調べると、過去に事例はあった。

賢者は歴史に学ぶということがある。

想像の中にしか過ぎないが、評価をするにはレビューするしかない。その中で、そのリスクをどうするか、を考える。

その「モノの考え方」をどうするのか。

答えを探すというよりは違う会社の人達が集まって議論をして、考え方を作っていく。

**魚の食べ方を教えるのか、
魚の釣り方を教えるのか。**

それを私たちは作っていく。一緒になって考える大切さ。品質を考えるうえで大切だ。

こういったセミナーを活用して、新しい考えをしてより進んだ考えを創り出していきたい。

ここで永田さんのターンは終了です。そして、このメッセージをふまえて細川さんが語り出します。

・細川 宣啓氏

技術者は無力だね。ということをお話していました。狭い領域で考えることは全員ができる。さまざまな考え方を議論することはできる議論するしかできない。

色々なことを想定しておく。
酷くいえば妄想しておく。

**魚を与えるよりは、魚の採り方を教える。
魚の採り方を考える。**

3.11以降、品質市場のニーズが高くなった。

永田さんは現場でできそうにないことは言わない。生でできそうなことしか言わない。すぐ信頼できる。
レビュー5人衆で一年間議論してます。

ちゃんとレビューしてるひと？
→いない。
ちゃんとして何？

レビューしてわかることって、悪いところがわかる。その悪いところをどうするか、が一番大切。

テストケースの粒度が一定であれば信頼度成長曲線は書いてしまう。
省庁に提出する際には必要になってしまったりすると、形骸化が進む。

レビューにはたくさんのが影響する。
経験やスキルなど。

目で見るときには人間の頭は補正をする。
最後に見ると、間違いに見える。

◆レビューとテストにまつわる話
-やらないわけ

テストもサンプリングです。
レビューは「やらない」ことが多い。
※スケジュール最優先のときなど。

レビュー計画書あるところ？
→あまりない。

Fear をコントロールする。
品質に関する怖れ (Fear) を出す。

Fear を考えると、狙いを明確化できる。

Fear Based Inspection
コレを一年間で作っていった。

品質上、「怖いところ」に焦点を当てる。

○レビュー工数が見積りにくい。
立ち上がりレビューをして、**2時間を1回やるよりも15分を8回やった方が2倍以上の効果が出る。**

レビューをちりばめる。という考え方。

自分のレビュースピード、コーディングスピードとは違う。総量はどのくらいなので、どのくらいになるのか。工数の見積もりが難しい。

いつもレビューしている仲間と一緒にやると、生産性が高い。

スペースシャトルはレビューアが2:1でいる。
当初は10:1くらいだったそうです。

野中先生の研究されている
Fault-Prone モジュール予測。偏在性を読みとる。

重点特化していくという考え方。

Hamlet の法則：兆候因子によるサンプリング
などがある。

○レビューを嫌う心理的側面
時間的プレッシャー。

「はい、あと5秒!」「ごぉー」「よーん」と
カウントダウンなどされると人間は焦る。

○レビューが必要な理由

レビューには色々ある。レビューを行う理由
・テクニカルレビュー：システム
・オーディットレビュー：プロセス監査

レビューは「人間の間違い」だけではなく
「人間の過失」も検出する。

V字モデルは途中でオフショアが入ると、途中で
納品・検収が入る。責任は1:9、9:1のビジネス。

誤字脱字を100個見つけた
モジュール間のエラーを1つ見つけた。
→修正コストが違う。

欠陥の種類によって見積もり値が変わる。
自動化しても見つけられないバグを抽出する。

コスト効果でいうと3倍くらい違う。

バグは上流で取る、は誤訳。
レビューでは「バグ混入期間」を短くするのが、
最もコストがミニマムになる。

毎日コツコツレビューしていくのがコツ。

○品質管理技術の未来：予測と予防

USのARMYのやり方「OODA LOOP」
監視して情勢判断をして、意思決定をして、行動
をする。

○OAgile Inspection

永田さんが第一人者。

バグはプログラムが生まれた最初からあるのに、
研究はされていない。

今は、日本で唯一の DataBase を作っています。

どんな分類にするのか？
バグの形。

DB デッドロックの例。病気で言うと併発症。

どの位置にあるかわからないというところから
だいたいこの部分と当たりが付けられる。

病理学のように、1つのバグを知ったときに、推
測ができるような方に進みたい。

どうして、魚がくつくのか。
いつ、魚が活性化するのか。

改善を行いながら、品質を作っていく。

最後は目。洞察力、推察力。
しかし洞察力だけでは食っていけない。

皆さんが品質について語ることをやめてしま
うと簡単に衰退する。

皆さんは何ができるか？
考えること、やることを継続して考えてください。

品質とは、腕で創り出すものではなく、
科学の力と目で創り出すものである。

この国を変えるなら、品質について考えてくださ
い。

◆感想

いつもながら、熱い発表でした。
Skype を使った遠隔地との対話を行う講演を
初めて見ましたw

これからの品質技術者へのメッセージにふさわ
しいメッセージと思いました。
品質について、もっと考える必要がある、と思
いました。

◆第3分科会 第1グループ

◆中谷 一樹氏

○ソフトウェアレビュー 第一グループ
Respect & Influence (相互の尊敬と影響)

分科会では3つの出会いがありました。

・仲間
お互いの良いところを吸収して、視野が広がった。

・研究
研究という世界では、今までにない新しい内容を考える。

・技術との出会い。
市販書籍に書かれているようなものではなく、実践的なもの。

簡単なものを2つ。
○お菓子：コミュニケーションのツール。
レビューの場では対立しがち。

○絵本：ゲーム。
ある技法を使うと2倍速くなる。
→知りたければ研究会へ！w

◆間接的メトリクスを用いて 欠陥予測を行うレビュー方法の提案

誰でも早く狙いをつけることができる。

一旦ドキュメントと関係の無いメトリクスを取る。

○プロジェクトメトリクス

- ・体制
- ・環境
- ・コミュニケーション

○プロダクトメトリクス

- ・ファイル属性
- ・キーワード出現数
- ・図表の数

例)

○プロジェクトメトリクス
きれいな デスク or きたないデスク
狭い机で敷居なし or 広い机、敷居あり
→隣の人との距離が近い方がいい。

○プロダクトメトリクス

文章のみ or 表付き
フッタのフォントが同じ or フッタのフォントが違う。

実際のデータを計測した。
句読点の数、「場合」というキーワードの数

B チームが一番句読点が多い→欠陥が潜んでいる
D チームが一番「場合」が少ない→分岐が少ない
=欠陥が少ない

予測どおりになった。

今後の課題は
・効果測定
・予測精度向上
・メトリクス収集

Q.

メトリクスの決め方は？
仮説を立てたように見えますが、合意形成されたのか、思いつきなのか。

A.

面白いもの、簡単に計測できるものを重点に置きました。
実際に取れたものは、少ないので

細かい話は是非論文をご覧ください。

◆感想

SQIP 研究会に参加はしていませんが、とても熱いディスカッションが行えるのだな、と強く思いました。

細川さんや永田さん、そして森崎先生などと一緒に考える。それだけでとても勉強になりそうな気がします。

◆第5分科会

◆坂本 一憲氏

○ソフトウェアテスト

Web アプリケーション開発における画面モックアップを利用した画面仕様書およびテスト仕様書の自動生成と設計作業の効率化の提案

◆Web 開発の現状と問題点

3ヶ月未満の開発が増大

要求分析→設計→開発→テスト

画面モックアップ=UIの外観を施策したプロトタイプ

画面仕様書とテスト仕様書

「画面仕様書やテスト仕様書が作成されない」
「作成されたとしてもトレーサビリティが維持されない」

画面仕様書やテスト仕様書が作成されないので
テストが仕様と実装の突き合わせにならない

◆本研究の目的

画面仕様書・テスト仕様書を作成
画面モック→画面仕様書(自動生成)→テスト仕様書(自動生成)
※手入力による詳細情報の追記。

◆提案手法

従来プロセスと提案プロセス

画面仕様書生成部
HTMLの解析
コメントの解析
→人的ミスの防止

テスト仕様書生成部
画面仕様書を解析、情報の読み取り、
有効系の検証内容を生成
画面モックにない無効系の動作を画面仕様書に
手動修正で追記
→人的ミスの防止

画面モックや画面仕様書の変更に対応可能。

◆ツールのデモ

実際のツールのデモがありました！

Q.
実業務への適用については、ツールを公開する前提ですか？
どこかにツールは公開されていますでしょうか？

A.
論文に記載されているサイトに公開しています。

Q.
画面単位であれば、画面単位で仕様書に作成されますか？

A.
Yes.

◆感想

作ったモックを基に画面仕様書とテスト仕様書を自動生成するツールの紹介でした。
これは是非触らせていただきたい！と思いました。

論文を読んでサイトをチェック！

◆第6分科会 Bグループ

◆大坪 智治氏

○派生開発
XDDPによるデグレード防止効果の検証とその効果を高めるための方法
-気付きナビの考案-

◆動機

派生開発の現場は、熟練者が品質を支えていた。

ソフトウェアの機能の急速な複雑化、大規模化
熟練技術者の不足
不具合多発による品質の低下

◆現状分析

不具合事例の分析結果
「派生開発の不具合は変更モレ/ミスとデグレードが約80%を占める」

熟練技術者プロジェクトにXDDPを適用
非熟練技術者プロジェクトにXDDPに適用

XDDPは変更モレ/ミスには効果があるが
デグレード防止は苦手。

熟練者と非熟練者との違い。

- ・データの知識
- ・制御の知識
- ・ソースコード以外で製品に影響を与えるものの知識

「非熟練者が既存のチェックリストから効率的に過去の教訓を引き出して利用できる仕組みが必要」

◆解決策

派生開発の中で発生する変更仕様とそれに関係したチェック項目を結びつけるためのキーワードがあれば、課題を解決できる。

変更仕様における変更内容を一般化したキーワードで変更仕様とチェック項目を結び付ける。

「変更特性」
○○画面に、××情報の入力項目を追加し、△ボタン押下時に必須チェックを追加する
→「画面入力項目の追加」「必須チェックの追加」

- 「気付きナビ」
- ・変更特性マトリクス
 - ・変更特性チェックリスト

◆解決策の検証

- ・気づきナビにより辿りつくチェック項目からデグレード防止に有効な情報を得られるか否か
- ・確認が必要なチェック項目の数が少なくなることを検証
- ・非熟練者でも、熟練者と同じチェック項目が抽出できることを検証
- ・非熟練者が新たな結果に気づける

デグレードの問題に限らず、変更ミスや変更モレといった他の問題に関しても大きな気づきがあることがわかった。

◆まとめ

スキルの差を埋めることは XDDP 導入効果の均質化にもつながる。

◆課題

気づきナビ効果の実証実験
現在実証実験中とのこと。

気づきナビの効果向上に向けた研究
変更特性の効果的な定義方法
チェックリストの効果的な作成方法
気づきナビのメンテ方法

Q.

XDDP の成果物への成果物にどうフィードバックするの？

A.

今は具体的に成果物への作成はしていない。
特性の列が足りない部分が出てきた。

◆感想

XDDP のドキュメント類から熟練者と初心者の差を埋めるようなヒントを与えることで、XDDP の効果を平準化しようと試みているように見えました。

経験の差を埋める、まさに技術！というアプローチがとても素晴らしいと思いました。
これからの発展が期待されます！

◆パネルディスカッション

◆「これからのソフトウェア品質技術者の育成」

今回の SQiP ミニシンポジウムでは、なんと twitter での実況が解禁されていました。
何と登壇者までもが tweet をするという珍しい展開でした。

ハッシュタグで検索してみると、
当時の tweet が読めるかも知れません！
ハッシュタグ：#SQiP_0418

そして始まりました最後のセッション。
司会の小池さんがパネルの開始を告げます。

これからのソフトウェア品質技術者の育成でしたが SQiP では「全ての技術者に品質技術を！」という考えでやっています。

まずは自己紹介から。

◆小池 利和氏

2011 年度 SQiP 研究会運営小委員会副委員長
SQiP 一筋 13 年！
ソフトウェア品質保証の主査
他の分科会よりも 2 回多く例会です！
2 割引です！w

そしてパネリストの自己紹介も行われました！

◆阪本 大志氏

第 1 分科会(ソフトウェアプロセス評価・改善)主査
家電をやっていました。最初はワープロなど。
会社より社外の方が多いですw

ハードを含めたシステムやサービス
QCD を向上し、ビジネスに直接寄与すること。

◆板倉 穂氏

第 2 分科会(プロジェクトマネジメント)副主査
「本当の問題は何だろう」が基本テーマ。

チェックリストに書いたから終わりってバカヤローw

プロジェクト管理者にとってのソフトウェア品質技術とはなんぞや。
品質は技術ではなく、管理と思っている。

◆奥村 有紀子氏

第 5 分科会(ソフトウェアテスト)主査
「良くすること」全般がテーマです。
コンサルティング、アドバイザー、SEPG、改善活動
良くするための活動をしています。

テストは大切だとか重要だとか、よく聞くけど、ちゃんと知っていますか？
ちゃんと良くすることを考えていますか？
より実践的なことをできないか考えています。
ちゃんとその文章、人に伝わっていますか？

品質技術とは「テストそのもの」
考え方、方法、管理、リスクなどすべて。
でも土台が無ければならない。

品質中心の文化。
文化とセットで考えていきたい。

◆清水 吉男氏
第6分科会(派生開発)主査
今年度から主査します。
どの組織にも属していません。

派生開発において一段高い品質が求められる。
XDDP に固定しているワケではありません。

◆鷺崎 弘宣氏
演習コースI(ソフトウェア工学の基礎)主査
二児の父です。
絵や図を書く。議論する。妄想する。

産学連携の機械を増やす。
ソフトウェア工学。

鷺崎にとって「ソフトウェア品質技術」とはパターンである。
偶然の繰り返しである。

◆栗田 太郎氏
演習コースII(形式手法)主査
お財布ケータイとかやっています。
「はじめにロゴスありき」
健全・文書・読み書き・コミュニケーション・仕様…
どうしたら職場をよくできるのか、をテーマにしています。

「形式手法と仕様記述」
形式手法だけだと人がこないので、仕様記述も！

形式手法と記号論理学、仕様記述、形式仕様記述手法の基礎。

栗田にとっての「ソフトウェア品質技術」とはソフトウェア開発＝着想＋言葉の記述、文書の作成、コミュニケーション。

◆◆ ソフトウェア品質技術とは？ ◆◆

ある技術があって管理があるのはわかるが
管理があって、技術があるのはわからない。

いい加減なことを管理して、なにやってんだ、と。
昔富士通にいたときに、なんだか分からないのだけれど、総点検だ！という。

○品質管理の弊害

何らかの不具合への再発防止対策として、「総点検しろ」とは誰でも指示できる上に点検する側も確認した気になれるが、**点検する項目が果たして不具合の再発防止に役立つか考慮されていないと効果は薄い。**

品質は制約、管理の問題・・・
品質は「お客様の満足」のためなのか。

ソフトウェア品質技術はあるのか？

○レビューは品質をよくしますか？
品質が悪いからレビューをするんじゃない？

レビューは「教材」である。

ソフトウェア技術に堪能である/ドメイン知識がちゃんとある。それを見る。
レビューとは知識共有である。

条件を言わないで、後で性能が出ないというのは変。先に言わないと。

全く同時に都内にあるお客様でレビューは一切しない。というところもある。

品質のモトになるのは間違いなく技術。

レビューはやった方がいいが、できるメンバーがいなかったら最初からやらない方がいい。

○品質技術とは？

プロセス改善とは悪いものを上げていくマナーと言ったが、無駄を減らしていい技術を組織の中に広めていくのもプロセス管理。

開発の方から、日本の品質管理文化が根付かないと、うまくいかない。

品質は品質保証部がいるから～と言うが、それは問題。一部の人間の問題ではないよね。

○品質は技術で作り込む

出てきた要求に対し、例外のケース等を考慮するには**製品分野や品質保証に関する深い知識と技術が必要になってくる**。品質根性論はやめよう。

改善の仕組みを作って広める。例えば**小集団活動での改善提案が全社で採用されるような仕組みを作れば、各自の労働意欲の向上に繋がる**。

繰り返し行われる作業の標準化を進めることによって、作業中の**問題に対する再現性が確認可能**になり、そこが改善点となる。

◆◆ ソフトウェア品質技術をいかにして習得・実践してきたのか。 ◆◆

◆阪本氏

プロセス重視
→改善はプロセスに反映させる

人重視
→モチベーションアップ

変化重視
→良い変化を重視

◆板倉氏

問題に直面して解決してきただけ。
勉強してない。

素直に事実を見る
何が問題か、色々な立場で見してみる
どうすべきかを考える
一般化できないか考える
考える裾野が必要だ。

レビューは品質を上げる→ホントか？

CPUを早いものにかえたら動かなくなったので
そうならないように仕様書に記述した
→解決になるか？

原因はわかったが、すぐにシステムを直す方法が
みつからない→使う人を観察したら？

◆奥村氏

「為せば成る、為さねばならぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」

最初は作る人間の視点だった。
「使う人のため」の視点
その後、「使う人がうれしいか」の視点を知る

「テストの効率と効果」
「テストと他プロセスの関係」
「テストは【人】が大切なプロセス」

「自分ができるように」ではなく
「他の人がやれるようにするために」

◆清水氏

ソフトウェアエンジニアリングのベース
復帰後、当時手に入る文献を渉猟。

スタンス-顧客をごまかさない。
人ができることはすべてできる。

論文に触れる。
論文の構成は問題を解決する取り組みと同じ。

◆鷺崎氏

ソフトウェアエンジニアリングへの想い
「このままではいけない」という思い
常にちょっと無理そうなことにチャレンジ。

100本、論文読む。

論文を読み、書く、というのは
現状の問題などが見えてくる。

研究
事実、データを重視する
やってみて、要点を考えて議論する
→最初はちゃんと現実を見ていなかった。

物事を常に俯瞰する。
現場でどっぷりとデータを眺めるのも良いが、物事の本質は何かを見るのが大切。

指導を仰ぐ、仲間をつくる

◆栗田氏

解決できそうな、それも少し背伸びをすれば解決できそうな課題を設定し、ひとつひとつ、相対していく。

人、特に健康を第一に考える。工学を活用する。

言葉を大切にし、文書を記述、検証する。
何を作るのか、何が事実なのか。
エラーを見つけるための多重構造を作る。

コミュニケーションを大切にする。

生活環境、開発環境、コミュニケーション環境、
学習環境を作っていく。

プロフェッショナルとしてのプライドを持つ。

考えること、書くことから始まり、終わる。

プログラムも文書の形式的な記述

◆品質に対する仕事って、誰の仕事？

○品質保証部に任せたい？

年年時間が短くなっているから厳しい。

品質保証部としては、開発者に品質をお任せする
というスタンス。

基本的には開発部門に全部移したい。

エンプラ系では、品質保証部門を持たないところ
もある。誰が見るか、な問題なのでは？

○第三者による品質保証は必要か？

開発部署では作業量が変わらず納期が短縮される傾向
にあるため、品質保証に必要な工数の確保が難しくなっ
てきている。

部署間のトラブル防止や調整、モラルハザードの監視や
押さえ役に品質保証部のサポートが必要な場合もある。

開発プロセスの保証や改善による品質保証自体が難し
い場合もある。例えば開発に適したプロセスをテーラリ
ングする際、まず適切にテーラリングできるか、次にテ
ーラリングしたプロセスを承認できるか問題が残る。テ
ーラリングや承認する際の判断基準には過去の成功体
験が重要であり、その体験が不足している組織も多い。

○最後のところは、モラルの問題。

条件付き限定出荷ということはできるが、
どうしても出してくれ、というときには手続きを
取るが、どれだけ品質に対してモラルが高いの
か。を見る。

○本当にプロセスの品質保証をすると、品質が上
がるのか？

などなど、沢山の熱い議論が交わされましたが、
ここで時間切れ。

パネリストの皆さんだけでなく、参加者、twitter
の皆さんから大変有意義な議論がされていまし
た。

◆終了の挨拶

◆小池 利和氏

設計などをされている方には是非来ていただき
たい。それが研究会の目的です。

ダメなものはダメと言わなくてはならない。

説得できるだけの自信と強さが無ければなら
ない

その言葉を信じてもらえる実力と人格が備わっ
ていなければならない

真摯に取り組みましょう。

以上で史上初となるSQiP ミニシンポジウムはそ
の幕を閉じました。

アッと言う間の半日でした。

◆感想

大変ためになる半日でした。

最初から最後まで、熱をもって届けられたSQiP
ミニシンポジウム。

この内容で無料とは恐れ入りました。

品質業界でも稀に見るパネルセッションの豪華
さでした。

「これからの品質技術者の育成」のために、SQiP
研究会などで議論し、論文を書くことで成長をす
るのだ、というメッセージを受け取りました。

WACATEでもたくさん議論し、その中で気付いた
ことや出た意見などを検証し、論文を書くような
ことをしてみたい、と強く思いました。

論文的思考、大切にしていきたいと思います！

書いた人：WACATE-Magazine 編集部

自己紹介

こんにちは、第3バイオリンです。私は新潟のとある会社で、テストエンジニアをしています。入社当初は開発担当でしたが、4年ほど前にテスト専任の部署に異動して、今もそこで働いています。主に、プリンタドライバやスキャナドライバ、それらに関連するアプリケーションのテストを担当しています。

また、私は@IT 自分戦略研究所の「エンジニアライフ」でコラムを書いています（オブリガート～感謝されるテストエンジニアになる～<http://el.jibun.atmarkit.co.jp/obligato/>）。

WACATE 参加のきっかけは、自分のコラムで（行ったことがないのに）WACATEのことを記事にして、それを目にした実行委員のある方がコメントをくださったのがきっかけです。自分で言うのも何ですが、きっかけとしてはかなり異色なほうだと思います。2009年冬に初めて参加して、以後は毎回参加しています。

コラムニスト、読者に会う

WACATE 参加前は、コラムを書いているといっても自分が特別なことをしているとは思っていませんでした（それは今でも同じです）。好きで書いているものだし、別に多くの人に読まれなくても、誰かが読んでくれていたらそれでいいと思っていました。自分のコラムがどのくらい読まれているのかはコラムのコメントや、アクセスランキングで大体わかりましたが、あまり実感はなかったように思います。

しかし、WACATEに参加してみて、大勢の方に「第3バイオリンさんですね、いつもコラム読んでいます！」と声をかけていただきました。自分が思っていた以上に、多くの方が私のコラムを読んで、いろいろなことを考えたり感じたりしてくれているということを知り、嬉しく思いました。WACATEに参加することで、自分のコラムの「読者」の存在をリアルに意識することができたのは大きな収穫でした。今もWACATEで出会った方からコラムについての感想をいただきます。これは本当に励みになっています。

WACATE初参加の後は、エンジニアライフの編集担当者から「旅芸人テストエンジニア」とい



著者近影

うあだ名を頂戴するほど、日本各地のテスト関連のイベントを飛び回り、コラムに書いてきました。TEF 東海の勉強会におじゃましたり、「JaSST' 10 Hokkaido」に参加したりして一気に世界が広がりました。

そういう活動を通して、テスト業界の第一線で活躍する方々に出会い、私のことを知っていただけたことが後々に大きな転機になったと思います。おそらくコラムを読んで、私のことを面白いやつだと思ってくださったのでしょうか、皆さんとても良くしてくださいました。しかも、それまでの生活では考えられなかったようなチャンスをたくさん与えてくださって、貴重な経験をさせていただきました。感謝しています。

さすがに加速しすぎ？

その貴重な経験の最たるものはやはり、新潟初のソフトウェアテストシンポジウム「JaSST' 11 Niigata」の実行委員長を任せていただいたことだと思います。このときのエピソードはMagazineのVol.27や、私のコラムに詳しく書いています（と、ちゃっかり宣伝）。

コラムニストであることを除けば普通の人だった私が、WACATE初参加からわずか1年ちょっとで実行委員長になってしまいました。いくらなんでも加速しすぎでは……と思いつつ、面白いコラムのネタになるからいいやとも思っています（笑）。

そして今は新潟で、「JaSST' 11 Niigata」で知り合った人たちと一緒にソフトウェアテストの勉強会を立ち上げたところです。この活動がどのような広がりを見せていくのか、まだ私にもわかりません。しかし、確実に言えることは、まだまだ加速は続くということです。どうぞ期待！

Software Test Topics

当番：コヤマン (Magazine 編集部)

こんにちわっす♪

上田ですっ

WACATE2011 夏の募集が始まりましたねっ♪♪♪

来月発行される WACATE-Magazine Vol.30 は WACATE 直前ということで、Software Test Topics も WACATE 直前特集ということで、プログラムに掲載されている書籍以外のものをご紹介します。と思っています。

今回は、いつもどおりですよーっ。

それでは、お役立ち情報をお届けしていきますっー♪♪

【資格】IVEC 知識試験 2011 春季受験申し込み中

受験申し込みはお早めによ

<http://www.ivia.or.jp/>

試験日：2011 年 6 月 19 日 (日)

申し込み期間：2011 年 4 月 18 日 (月) 2011 年 5 月 25 日 (水) ※団体申し込みの場合は、2011 年 5 月 31 日 (火)

が期限。

試験会場：東京、大阪、名古屋、札幌

試験区分：エントリーレベル 1、エントリーレベル 2、ミドルレベル 3、ミドルレベル 4

受験料：エントリーレベル 1、2：10,500 円 ミドルレベル 3、4：15,750 円

受験申し込み受付中です。

申し込みが遅れないように、お早めに申し込みをしましよー。

【資格】初級ソフトウェア品質技術者資格試験

申し込みめ切が延期ですっ

<http://juse-sqip.jp/jcsqe/juken.html#title02>

開催日：2011 年 5 月 28 日 (土) 10:30 11:30

開催地域：東京、大阪、愛知、広島、福岡

試験料：10,500 円

申し込み期間：2011 年 5 月 11 日 (水) 15 時まで

試験申し込み期間が延長されました。

4 月 22 日までだった申し込み期限が、5 月 11 日まで延長されています。一ヶ月近く延長しましたね。

【イベント】ソフトウェア品質シンポジウム 2011 一般発表募集

申し込みめ切が延期ですっ

<http://www.juse.or.jp/software/217/>

申し込み期限：2011 年 5 月 10 日 (火)

2011 年 9 月 7 日 (水) 9 日 (金) に開催されるソフトウェア品質シンポジウム 2011 における一般発表の募集期間が延長されました。

募集テーマは要求やシステム開発などに関連した観点、ソフトウェア開発技術の観点、マネジメント技術の観点、そして品質管理・テスト技術の観点と多岐にわたっています。これらのテーマに関連した実践結果をベースにした「経験論文」「経験発表」が募集対象となっています。

【PDF】Quality One 2011 年 5 月号、発刊予定

5 月号は、どんな特集かな？

<http://juse-sqip.jp/qualityone.html>

発行元：財団法人日本科学技術連盟

形態：PDF (ダウンロード)

価格：無料

5 月号の発行についてはまだ Web で掲載されていませんが、今月は Quality One の発刊月です。

【書籍】俺のコードのどこが悪い? ——コードレビューを攻略する 40 のルール

レビューチェックシート付きっ

<http://astore.amazon.co.jp/wacate-22/detail/4798029181>

著者：藤原克則

価格：2100 円

ISBN：978-4-7980-2918-4

発売日：2011 年 3 月 15 日

ページ数：296

「レビュー準備編」と「レビュー実践編」という構成になっています。

レビュー実践編では、コードのどういったところに注力して見ていくかについて書かれています。

どこに注力するかって大事ですね。

このコードレビューの内容をふまえて、コーディングルールを作ると非常に効果的かなと思いました。

ちなみに、上田はコードレビューを「ちゃんとやった」経験ってあんまりないです。。。

ちなみに、このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくんない?」といったものでも OK です。開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。情報をお待ちしております m(_ _)m

ぱじゃま★パーティー

てすバナ語るっcha

■「そういえば、投稿戦士以外に

WACATE ファンの発信方法ってないよね・・・」

「ないなら創ってしまえばいいじゃない！」

↑ということのでっ☆

てすバナチャットルームを月1回開設していま～す☆

WACATE-Magazine の企画として、投稿戦士以外のカタチで読者など WACATE ファンが関われるイベントとかできないかなあ？・・・という案から、チャットで座談会(分科会出張所的なもの)を開催したらいいんじゃないかなあ・・・という話になりました。その都度テーマを決めてみんなで語り合おう！という企画です。チャットの内容は編集したうえで Magazine に掲載します！

■ルールは今のところ以下のとおりだよ！

其の壱：

チャットの内容は WACATE-Magazine に掲載される前提です。したがってログを保存させていただきます。

もしオフレコの発言がありましたら、その際に明確にしてください！なお、全部オフレコっていうのは受け付けません！！www

其の弐：

テーマに沿った発言をしよう！（できるだけ・・・）

毎回テーマを決めます。そのテーマから大きく外れないようにご協力願います。

オーナーが沈黙し始めたらそれは脱線復旧のチャンスを狙っていると察しましょうwww

其の参：

悪口や誹謗中傷の類はダメよ！（冗談は、明らかにネタってわかるようにね♪）

其の肆：

対話とか論議を楽しみましょう。ROM だけ、ひたすら語り続ける、といった一方通行にならないように心がけましょう♪

次の開催日時(まあ夜です。パジャマパーティーですからw)、テーマ、申し込み方法はこのコーナーの最後に記載します。

・・・とか言っておきながら毎回テーマを決めそびれてごめんなさいm(_ _)m 今号は次回のテーマ記載しますよ～

オンラインという特性を生かして、各地のテスト大好きな仲間と繋がりたいと思います。皆様の参加をお待ちしております～す！！

今回のテーマは・・・オーナーがこのチャットルーム企画をたてたときから考えていたテーマです。用語の話ですよ用語の。実は 2010 冬の分科会もこの用語についてやりたかったという裏があったりしてw

■第4回♪

本題突入時刻 [21:21:06]

ものものさん、わっしーさん、編集部うえだ&ばんばん、の4名で開始！

うえだ：今回のテーマはどんなんでしょうか？

ばんばん：これまで3回がイベントについて語ったので、今回はテストっぽいネタで話をしようと思います。このチャットを始めるときからやりたいと思ってたことで、「**テストの種類**」です。

ものもの：それにしても、重いテーマを引っ張ってくる。

ばんばん：テストの種類って、どういう区分があってそれぞれどういう定義なのかもイマイチわからなくて、もやもやしているところが多いので、その話をしたいなあと思っていました。個人的には、「**テストタイプとは何ぞや？**」という疑問がいつまでも消えないので、テストタイプってどう考える？という話を聴きたく思っています。

テストタイプはこういうもの、という決め付けは良くないのかな？ということも最近思っています。それぞれの組織で定義するのがよいのだろうと。で、どんなものをテストタイプって思っている？という話ができたらいいかなと。

うえだ：テストタイプって、自動テストとか手動テストみたいなテストの種類という感じですか？

ばんばん：私は自動か手動か、というのは、テストタイプとは別に定義するかな？・・・とか、そういう話をしたいです。で、どこから始めましょうかね・・・

ばんばん：まずは、テストレベルの話は除外しましょうかものもの：コンポーネントやシステムと言っているから、いわゆるテストレベルは無視しても良いのかも。

わっしー：テストレベルは UT とか IT とか・・・ですか

ばんばん：そうそう、テストレベルもいろんな呼び方があるからその話をしてもいいかもとは思ったのですが。

でもどこか絞り込んだところで話を始めたほうがよいので、**まずはテストタイプって何ぞや？の話をしてみてもいいですか？**

わっしー：はい

ものもの：いいですよ。

うえだ：おねがいします

ここから、だんだん、書籍やら pdf やらサイトやらを参照しながらの勉強会が始まりますw

ものもの：ISTQB の用語集では、**A group of test activities aimed at testing a component or system focused on a specific test objective** だよ。

と、言ってみる。

ばんばん：これを日本語で解説するとどうなるんでしょう？！

と英語の苦手な人は言ってみる

・・・て、用語集を開かなきゃだめですね（汗）

日本語にすると、コンポーネントまたはシステムに**関連する品質特性に向けたテスト活動の分類**と用語集に書かれているのですが、**品質特性に該当する英語は？**

もののもの：JSTQB 翻訳版と ISTQB 版の違いは、版の違い。

ISTQB には、品質特性は入っていません。

ばんばん：私が感じているのは、「品質特性に向けたテスト活動」だけなのかなあ？という点です。

もののもの：**マイヤーズの「ソフトウェア・テストの技法」**を手元に置いている人いる？

ばんばん：すみません；それは今実家・・・orz

もののもの：僕も実家に送ったばかり。

わっしー：ありましたー♪ソフトウェアテストの技法

もののもの：よし。後で上級テストの章を使うから。

わっしー：ハイ

もののもの：JSTQB-FL のシラバスには、次のようにあります。テスト活動群は、ある特定の目的、あるいは、テスト対象をベースにして、ソフトウェアシステム、(あるいは、その一部)の検証をすることに向けてることができる。

テストタイプは、次に示すように特定のテストの目的に焦点をあてたものである。

- ・ソフトウェアの機能
- ・信頼性、使用性等の非機能的な特性
- ・ソフトウェアやシステムの構造やアーキテクチャ
- ・関連する変更、すなわち欠陥が正しく修正されていること(確認テスト)や、意図しない変更がないことの確認(回帰テスト)

ばんばん：このシラバスの文を読み解いて、どれが該当するか考えていけばよいか？このシラバス文からすると、「機能テスト」「確認テスト」「回帰テスト」は、テストタイプに含まれるし、「信頼性テスト」「使用性テスト」といった品質特性に基づくテストもテストタイプに含まれるという解釈でよいですか？

もののもの：え〜と。ちょっと違う。読み解くとかでは無く、議論する際のいくつかの情報を提示している感じ。

もののもの：例えば、こんなものもあるんだよ。

(と、とある企業のテストカテゴリを紹介)

もののもの：**マイヤーズの「上級テスト」**もそれに当てはまる。・・・なんて書いてある？

ばんばん：わっしーさんよろしく〜

わっしー：**ぬおー**

上級テストとは、というところをまず書けばいいですか？

もののもの：うろ覚えなんだけど、テストカテゴリ(テストタイプ)のことを書いてあるでしょう。

わっしー：**テストケースの15の範疇**、が書いてあります。

機能部分テスト、大容量テスト、ストレス・テスト、有用度テスト、秘密保護テスト、効率テスト、記憶域テスト、構成テスト、互換性/構成/変換テスト、設置テスト、信頼度テスト、回復テスト、サービス性テスト、文書テスト、手続きテスト

もののもの：そうそう。テストの範疇。これを見ると、テストタイプに似ていない？

でも、マイヤーズは上級テストとして、システムテストを対象にしていたんだよね。

ばんばん：XX 性テスト という、何をテストしたいのか？を定義したテストと、XX テスト という、どんなテストをするか？を定義したテストとが混ざっている気がするのですが？

テストタイプはシステムテストに対して使う？システムテストに限らない？

もののもの：**ISTQB のスタンスは、コンポーネントにもテストタイプを使うから、システムテストに限るわけではありません。**

ばんばん：なるほど。

うえだ：たしかにシステムテストに限った分け方ではないですね。

もののもの：性能テストはシステムに限らないですね。

ここでオウミさん参戦！

もののもの：この他に、高信頼化ソフトウェアのための開発手法ガイドブック

<http://sec.ipa.go.jp/reports/20100915/20100915.pdf>

p.133~135(PDFの枚数では143~145)に書かれているのも参考になるよ。

これらを見ながら、テストの種類を考えてみるのはどうでしょう？

ばんばん：はい。と、とりあえず各資料見てみましょうか。

オウミ：面白そうですね。

うえだ：A社とF社のシステム結合のテストの種類が、マイヤーズの上級テストの種類とにしていますね。

ばんばん：各社のテスト一覧表見えます。この中に書かれているもの一つ一つがテストタイプだという認識でよいのでしょうか？

もののもの：テストタイプというよりは、エンプラ系の各社で、テストの種類を挙げたらこうなった、というものです。だから、現実に近いかと。組込み系は(先に紹介した)某社のが近いのかな。

ここでしんすく(け)さん参戦。さぁ賑やかになりますよw

しんすく(け)さん：まいど〜♪>ALL

テストの種類ねええええ。また深いテーマだ。

もののもの：そうでしょう。深いでしょう。**2時間で終わるのかな。**

もののもの：IPA/SECのものを参考文献に挙げたのは、ばんばんさんが求めているテストの種類の実態に近いと思ったからなんだ。

現場でテストの種類というとき、テストタイプみたいにきれいな感じじゃないんだよ。

ばんばん：テストタイプというときれいになりますか？

もののもの：テストタイプというふうに抽象化した状態で議論することもいいけれども、べたべたの方がWACATEらしいでしょう。

ばんばん：**テストタイプってどう定義するのかわからなくて、ぐちゃぐちゃになってます。私(涙)**

もののもの：**テストタイプというのは、テストの目的を達成**

するために行うテストのことだよ。

だから、「何のためにテストするのか」が分かれば、それがテストタイプ。

ばんばん：何のためにテストをするか？ということはテストの目的とイコールになりますか？

もののもの：「**何のためにテストをするか？**」という**テストの目的と、テストタイプで扱うテスト目的は違うので注意が必要。**

わっしー：おお〜一緒かと思った。

しんすく(け)さん：前者のテスト目的のほうが上位かな

もののもの：これもテストの目的といいます。FL シラバス 14/81 より

- ・欠陥を抽出する。
- ・対象ソフトウェアの品質レベルが十分であることを確認する。
- ・意志決定のための情報を示す。
- ・欠陥の作りこみを防ぐ。

テストタイプで扱うテストの目的とは違うでしょう。

わっしー：ちがいましたー

もののもの：欠陥を除去するとか、そういうテストの目的ではない方の目的が、テストタイプね。

うえだ：目的に「テストをする」ってつけてみました。

- ・欠陥を抽出するためにテストをする。
- ・対象ソフトウェアの品質レベルが十分であることを確認するためにテストをする
- ・意志決定のための情報を示すためにテストをする
- ・欠陥の作りこみを防ぐためにテストをする

もののもの：そう！ 前者はテスト活動の目的なんだよね。

ばんばん：あー、なるほど、テストの目的のなかには、テストタイプにつながるものではないものもある。ということかな。

もののもの：チャットだからね。分かっていること、当たり前のことでも、言っておかないと、悩む人がでてくるから。まあ、こういうふうに積み上げるように話をすると、たいてい、女性に嫌われるんだけどね。

ばんばん：いえ、いろいろ解説していただけて嬉しいです。というかその前にオマエもーちっと勉強しろよ#って話ですよね^^;;すみません・・・

うえだ：テストタイプに同じようなことをしてみると、、、
「ソフトウェアの機能」の場合、ソフトウェアの機能を、、、どう書けばいいんだ、、、

ソフトウェアの機能をテストする？ソフトウェアの機能を**テストするために「●●テスト」**をする？

ばんばん：あ、うえださんが言いたいこと、私も確認してみたいことだと推察！

もののもの：機能をテストするために行うテストが、機能テストである。というように、**意味がない文章になるんだよ。**機能テストは、機能を見ているの。性能テストは性能を、文書テストは文書を、つまり、**テスト対象の「何か」を見ようとしているんだ。**

うえだ：「何を見るか？」であり、「どうやろうか？」ではないということですか？

ばんばん：例えば、先ほどうえださんがあげたような「自動テスト」「手動テスト」というのは、テストタイプとは違いますよね？

だけど、「**負荷テスト**」って、どちらともとれそうな気がしませんか？でも、「何をテストしたいか」によって決められたテストはテストタイプなのかなあ

しんすく(け)さん：負荷テストは(負荷に)耐えられるかを「見たい」んでないかな？

オウミ：「負荷テスト」だとどちらともとれますね。「機能テスト」だとわかりやすいですが。

ばんばん：負荷テストに対して「なにを見たいのか」って、複数あると思うんですよ

しんすく(け)さん：うん。そゆ意味では、テストタイプ全部そうだと思います。つまり**まだ抽象度が高い。**

オウミ：試験時の負荷量とか負荷かけたときの処理時間とか…という意味ですか？ >複数ある

ばんばん：性能を見たいときと、耐障害性を見たいときがあるかな、と。

うえだ：そうですね、どこまでから耐えられないのか、って見たいですね。その場合、障害試験のくくりになるのかな？

ばんばん：でも、見たい目が「手段」だとしても、そのテストに(複数でも単数でも)何らかの「**テストしたいこと**」がわかるテストの種類であれば、それはテストタイプと考えていいのかしら。

組織によって、負荷テストというかもしれないし、耐障害性テストというかもしれないし、ということかなあ？

しんすく(け)さん：**テストタイプはそこから一意に具体的なテストの活動を導けるものではないと思う**ですよん。

私の中では負荷テストは性能テストの下位です。

オウミ：1 テストタイプに複数のテストの活動が紐付くこともあるということですか？(抽象度が違う)

しんすく(け)さん：YES

たとえば、セキュリティテストの方法論を昔お話ししたことがあったと思うのですが、セキュリティテストは、「想定しているアクセス権の設定確認テスト」と「ペネトレーションテスト」の2つから構成されていました。

もののもの：認証と認可ね。

しんすく(け)さん：いえす

回歸テストといっても、これまでの不具合を総ざらいするタイプと修正による影響範囲を新たに設定するタイプと、ふたつみたことあります。本来的には前者でしょうけどね。なので、そういう**抽象度の比較的高い言葉**だなーと認識しています。

ばんばん：テストタイプは、抽象度の高いものばかり？

しんすく(け)さん：うん、そう思ってる

ばんばん：先ほど上位下位と言う話をしていましたが、**下位になるものは抽象度が低くなる**と思うのですが、**下位のものはテストタイプとして扱わない？**

しんすく(け)さん：いえ、**下位のものもテストタイプ**と**思います**。つまり、××テストの××の部分が狭義のテスト目的を指している限りそれはテストタイプ という理解でいます。「単体テスト」はテストタイプじゃない。範囲を示してるから。

(とか言ってますが、僕もテストタイプってあんまり言葉が良くない気がします。このように直感的ではない、という意味において。ただ、代替案がないorz

ばんばん：**テスト対象に対して、「テストしたいこと(テ**

トで確認したいこと)」があって、そのテストしたいことを実現するためのテストがテストタイプ であってます？
しんすく(け)さん: 実現するためのテスト「の分類」がテストタイプ と、おもいます。グループ名。

ばんばん: 私はなんとなくイメージがついた気がするのですが、皆さんはいかがでしょう？
うえだ: なんとなくイメージがつかえました。
わっしー: イメージできました！わかりやすいです。
うえだ: 「グループなので、テストによって深さがことなるという感じですね。あるテストはテストタイプは一段階だけだけど、別のテストになると、テストタイプがネストしてくるみたいなの。
しんすく(け)さん: うん、そんなイメージ。ネストするやつもいるし、しないやつもいる
オウミ: 私も、なんとなくですがイメージできました。
しんすく(け)さん: あくまで目的のグループであって、「じゃ、実際どうやんの？」っていう情報は一切含んでいない

ここで、「グループ」というキーワードがでてきたことから、ものものさんがひとつの質問をします。何故以下の質問をしたかについては、後に出てきますヨ。

ものもの: 湯本さんは、テストカテゴリという言葉を使っているけど、それは大丈夫？
しんすく(け)さん: んん??大丈夫、とは??(使っているのは存じてます
ものもの: **テストカテゴリは、テストタイプの一様なかな。それとも別物？**
しんすく(け)さん: あ、同じ意味かなーと思ってました。違います??
ばんばん: 湯本さんの使っていらっしゃるテストカテゴリについては、テストタイプから具象化したもの？先ほどの某社のテストカテゴリはテストタイプだと思うんです。

・・・しーん・・・

ばんばん: 反応がきていないのは、みんなテスト PRESS Vol.10 を見てる?! w 私は背後に本棚があるので、すぐ取れるのですがw
わっしー: おおお何でわかったんですか
ばんばん: だって私がそういう行動にでたんだもんwww
うえだ: テスト PRESS は、仕事場にあるのです、、、

編集部コヤマン参戦。

ばんばん: ただいま「ゆもつよメソッドのテストカテゴリ」は、テストタイプなのか？別ものなのか？という話をしています。
コヤマン: だいたい了解です。
ばんばん: そしてみんながテストプレス読んでたりしてw
コヤマン: で、チャットが盛り上がりす困っているカンジですかね? w
ばんばん: 先に話していたのは「テストタイプとはなんぞ

や?!」でした。
コヤマン: おおー、智美塾ちっくw
うえだ: **品質特性->テストタイプ->カテゴリ**みたいな感じですね。
ものもの: 旧版のゆもつよマトリクスの例。
http://blog.goo.ne.jp/mickey_suzuki/e/664ca05baef229f2315a2abb12c00eba
機能とあるのが、テストタイプ。
その後にある、入力表示とか、ボタン・遷移とか、帳票出力がテストカテゴリね。

コヤマン: うーん。僕のイメージはテストカテゴリはテストバスケットなんだよねー
とって通じるかなあ
しんすく(け)さん: 第3の意見がでたぞ^-^:ww
コヤマン: あら、混乱させたかしらw

テストバスケットとはなんぞや?!と思った方は、JaSST'11 Tokyo の智美塾の資料(テストアーキテクチャモデル)をご覧ください!

コヤマン: テストタイプって、定義が難しいよねー
しんすく(け)さん: テストタイプを製品のどの機能にあてるか?って感じですかね。>テストカテゴリ
テストカテゴリとは何か?
1. テストタイプと同じじゃね
2. テストタイプの下位じゃね
3. テストバスケットじゃね
です。

僕は最初1でしたが、ものものさんの記事を見て、2に寝返りましたなう。(ゆもつよメソッドのコンテキストにおいて)

コヤマン: ゆもつよメソッドのコンテキストにおいては2だと思うけど、今の僕のテストアーキテクチャの理解だとバスケットに近いなあと思ってます。先に、箱を作るカンジがして

しんすく(け)さん: うん、それもわかる。コヤマンコンテキストにおいてはそれじゃね。「テストカテゴリ」という言葉の定義

コヤマン: うん。
しんすく(け)さん: つまり、**ものもの&しんすく コンテキストにおいては、テストタイプと同義**

ゆもつよコンテキストにおいては、テストタイプの下位
コヤマンコンテキストにおいては、テストバスケットと同義

が今の状態。
で、**どのコンテキストが妥当かを議論することに意味はない。**

コヤマン: だねえ。観点の一つとも見えちゃうしねw
しんすく(け)さん: ゆえに、最初の問いの、大丈夫?がわからなかった次第です。
ものもの: テストカテゴリという言葉のおそらく最初が、マイヤーズの上流テストに載っている「テストの範疇」。上流テストはシステムテストを対象にしているから、今で言

うテストタイプと重なるんだ。

コヤマン: なるほど

しんすく(け)さん: ふむ

テストタイプって、下流のテストには適用できない、かなあ?? (単体テストで負荷テストをしてもいいと思う、、、)

ばんばん: あ、その話もさっきしてました(先の話振り返り)。

もののもの: でね。テストタイプはシステムテストに限らないでしょう。だからテストカテゴリが上位で、テストタイプが下位という認識もあったんだ。

hiroiseさん参戦だよ

hiroise: 単体テストの分類は難しいですねー。ライブラリやクラスが商品なら、単体テストが上位のテストタイプにもなりえるんじゃないかしら

しんすく(け)さん: なるほど

もののもの: だけど、湯本さんの方法論が広まって、テストタイプの下にテストカテゴリが着くのが広く知られてきたんだね。

しんすく(け)さん: すごいなああ。ある技術の発展を肌で感じられる距離にいるww おもしろいww

もののもの: では、そのテストカテゴリをみると、排他制御とか、帳票出力とかが書かれている。これって、機能そのものじゃない?

ばんばん: そうですね。

コヤマン: ですね。

しんすく(け)さん: はい

hiroise: テストタイプを機能別にわけた感じですか??

もののもの: 湯本さんの言うところのテストカテゴリは、自社でやっているテストを抽象化してまとめた、**グループ化したものなんだ**。

コヤマン: それらは、湯本さんの方法論の流れからして、まず機能一覧を洗い出すという前提があるからと思っていますが

もののもの: 以前やったテストのテストケースを集めてきて、分類したとき、その分類のラベルが「帳票出力」だったんだね。機能一覧とは関係無いんだな。

コヤマン: となると、バスケットそのものな気が。あ、でも微妙に違うか。。

もののもの: (先ほど)しんすくさんが、テストタイプは**グループ名**と言ったので、**ゆもつよのテストカテゴリ、つまり過去のテストケースを分類するものと同じなのか、それとも違うのか、という意味で大丈夫?って聞いたんだ**。

テストタイプ=帳票出カってちょっと違うでしょう。

しんすく(け)さん: なるほど。ゆもつよコンテキストにおいては全然違う、というのがわかりました。

もののもの: ゆもつよメソッドの話をしたいのではなくて、「テスト対象に対して、「テストしたいこと(テストで確認したいこと)」があって、そのテストしたいことを実現するためのテストがテストタイプ であってます?」

(という質問)から、テストのグループ化という話に流れたので、**グループ化**という、**みんなが知っている(ゆもつよメソッドね)別の解釈の仕方もあるよ、**と言いたかったのです。

うえだ: 分類わけやグループわけとなると、いずれにも属さない「その他」テストタイプってあるんですか?

しんすく(け)さん: ない。に一票。

ばんばん: その他テストタイプって!!!

しんすく(け)さん: なんていうか、出張申請で、出張の目的: **その他** って書いてある感じ(笑)

わっしー: www

うえだ: わかりやすいですっ

コヤマン: えーとゴメン。一つ確認したいのだけれど、まず、「テスト」と言っているのは、手法等の種類ではなく、「テストを実施する際の呼称、いわゆるテストタイプとかそういうもの」でよい?

テストの種類って漠然としすぎててわかんないw今の流れは後者な気がするのだけど。

しんすく(け)さん: たしかにw

オウミ: テストレベルではない、テストの目的そのものでもない、というのは共通認識になっていると認識。 >呼称

ばんばん: はい。テストの種類って漠然としててわかんないから、どういう分類があるのかな~なんて話もしたいんですけど、その前にテストタイプを理解していないとじゃあテストタイプ以外にどんな種類があるの?という話に移れないなあと・・・私は思っていました。

オウミ: では、元々はテストタイプより広い話をしようとしていたのでしょうか?

ばんばん: 実はそうです^^;;

しんすく(け)さん: おもしろいっすね。超メタだ。

ばんばん: **でもすでに3時間近くたってますorz**

コヤマン: まあ、人に「いい女」を定義しなさいと言ってあるよなモンですからねえwそりゃまとまらないw

オウミ: そうだったのか...

しんすく(け)さん: や、ちがくね? 「いい女」ではなく「いい女の種類」だよ

オウミ: そこっすか?!

コヤマン: ww

コヤマン: まあ、実際に言葉の使い方は文化によったり背景によったり違うワケで、難しいよねえ

しんすく(け)さん: いや、こう、いい女ってどんな?だと、お前の好みなんかしらねーよ! だけど、いい女の種類っていうとある程度パターン化出来るかもなので例示しやすいのかなあ、って言いたかったorz

hiroise: 「いい女」で、美しさの種類、仕事のできる能力の種類、精神的な種類とか、色々な切り口で定義づけする感じですかねー

hiroise: なんかアーキテクチャを語るときの「観点」みたい

オウミ: ばんばんさんがテストの種類に興味をもたれた経緯とか背景は、ありますか?

ばんばん: テストの種類ってひとことという、**どんな種類?って聴きたくります**。ホントはどんな種類があるんだろうって、分類してみるワークとかをやってみるのがよいかなあなんて思っています。

「種類」ってひとことで済ませるってちょっといい加減といいたいでしょうか・・・

オウミ: なるほどです。

しんすく(け)さん: 目的で分けるテストタイプ、時期や範囲で分けるテストレベル、実際の作業手法で分けるテスト技法、かなー。種類の種類。いまばっとおもいつくの

オウミ: そうなると、「テスト」の定義から認識をあわせる必要があるのかなあ、とも

hiroise: フェーズとか

ばんばん: でもって、ある程度の分類をしたところで、組織によっていろんな「XXX テスト」が出てくる。それって認識あってるのかどうか良くわからない。

hiroise: 色々できそいですね

オウミ: (同じく、「いい女」をパターン化するなら、「いい女」の定義をしないとズレそう)

コヤマン: 出てくるよね

しんすく(け)さん: あ、役割で分けるテスト職種なんかも。

ばんばん: ひとつの組織にずっといるなら、それでも構わないでしょうが、複数の組織を渡り歩いていると、自分のなかにきちんとした考えをもっていないと話ができない。

hiroise: 切り口は色々ですよ

しんすく(け)さん: あ、スクリプトと探索的で分けるテストパラダイムなんてのもありますね

hiroise: 確かに>スクリプトと探索的

ばんばん: そういう点で、どんな分類が考えられる?どんな例がある?そういう話が語れたらいいなあと思っていました。

[23:52:05]

とりあえずここで話題が一段落つきました。

この後は「分科会その後」といったカンジで、居残り組で語り続けました。

コヤマン: テストの種類の種類を出してみると面白いかもね。さっきのしんすくさんのみたいな

ものもの: テストの種類の種類。

ものもの: ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト

しんすく(け)さん: おお

ものもの: にしさんがよく使う 4つのテスト。

しんすく(け)さん: お、なんでしょう、それ、4つのテスト??

ものもの: アジャイルで使う4象限もそうだろうね。

しんすく(け)さん: おおお

しんすく(け)さん: ブラックボックステストと、ホワイトボックステスト、って、こう、テスト担当者に渡す情報の前提で分ける感じかなー。

あ。ちがうか。ソフトウェアを中心に置いて、内部処理をみるか入出力を見るか、の違いか。

ものもの: テストの種類の種類で、最も使われているのはホワイト/ブラックだと思うよ。

しんすく(け)さん: そう思います。

コヤマン: ですね

わっしー: 同意ー

しんすく(け)さん: 部長さんに「テストにはホワイトボッ

クステストとブラックボックステストがあるんだよ(キリッ)って言われて「はあ」としか返せませんでした^-^;「そ、そうっすね」

ばんばん: 私も最初に知ったのはその言葉だったかしらものもの: ISTQB-FL のテストタイプには、機能、非機能、構造、変更(回帰)の4種類が挙げられていて、テストタイプの分類の一部になっているようなところがあるけどね。

コヤマン: ホワイトとブラックって、構造のうちの話だと僕は位置づけています。ブラックが広いので、機能にも入るんですけども

しんすく(け)さん: ホワイトとブラックを世のテスト分類のルートみたいに言われるとすごい違和感あります。

ばんばん: 構造というか「どういう立場でテストを考えるか」な気がします。

コヤマン: 視点の違いだよ

hiroise: 仕様ベースか構造ベースかっていう言い方なら結構しっくりきます。

ものもの: 今の話の流れは、テストタイプ以外のテストの種類は何か、ということで、その一つの例が、ブラックボックステスト、ホワイトボックステストだったんだけど、ISTQB-FL 的には、テストタイプの分類方法だよって言われている感じ。

コヤマン: 仕様ベースと構造ベースって、いわゆる4つのビューのうちの2つ??

ばんばん: テストタイプの分類方法といわれると、んーなんか違う気がする・・・とってしまいます。

しんすく(け)さん: 同意

ものもの: (コヤマンの「ホワイトとブラックって、構造のうちの話だと僕は位置づけています」に対して)

それでもいいけれども、ISTQB-FL では、構造テスト(ホワイトボックステスト)だからなあ。

コヤマン: え ISTQB だと同義なんですかー。すっげー違和感あるw

しんすく(け)さん: 構造テスト、の構造って何をさしてるんだろう。コンポーネントの”中身”を刺して構造、のかなー

hiroise: そうなのですねー

コヤマン: でも最近ってさ。ホワイトボックステスト!と言っても既存のモジュール使ったりしてるから、結局ブラックボックスじゃね?って思ったりもする

ものもの: ホワイトボックステスト=ソースコードの構造のテストと言う先生が結構多い。

しんすく(け)さん: なるほど

コヤマン: ホワイトボックステスト=ソースコードの構造テスト、納得。

わっしー: 私もそう思ってます

しんすく(け)さん: そうそう。信頼の稜線をどこに定めるかで、ブラックボックスのどこまでをブラックにするか、変わるよね。

hiroise: 僕も構造のテスト=ホワイトボックステストって思ってた

ものもの: でも、ISTQB-FL のスタンスは、システムの構造のテストも構造テスト=ホワイトボックステストにしているんだ。システムテスト=ブラックボックステストと考えている人にとっては、受け入れられない考えだよ。

しんすく(け)さん: で、その構造のテストって何をテストしてるんでしょう??なんかこう、「構造のテスト」にあんまり納得が行ってないので、ホワイトボックステストとブラックボックステストという分類に意義を感じないのですよね。

.....そして

この後「ホワイトボックステスト」の話で.....なんと3時間語ったとかw

構造のテスト(ホワイトボックステスト)は、ナニを確認するためのテストなんだろう?!

ブラックボックステストと項目がかぶるところがあるけど、構造のテストを行う理由は?

とか.....

(詳細は教えてあげないwww

参加者特権ってことで^-^-)

誤解しているところや、理解が浅かったところなどを発見できて、すごく勉強になりました^-^-

話を聞いた後で JSTQB シラバスを改めて読むと、あああこういうことが言いたいのかな、と、これまで理解できていなかったことがなんとなくは理解できた気分になりました。そして、本当に用語は難しく、組織や人により認識は異なるなあと実感しました。

こんなふうに、チャットルームで分科会に参加した気分が味わえますよ♪ WACATE に来た事が無くても、どんどんチャットに参加いただければと思いますーす!

■参加方法と次回予告だよ

□チャットに関する要件は以下の通りです♪

・Skype のチャット機能を利用します(ボイス通信は使いません!)

・グループに参加していただきますので、コンタクトリストにない人が含まれるチャットに参加できるように設定してください

・チャットに表示される名前を、Magazine に掲載してよいハンドルネームに設定してください

次回開催は.....

5/21(土) 22:00~ chat 開始!

21:55 にはパジャマに着替えて skype 前集合♪
テストのお話しましょう♪

テーマは

「学んだことを社内にどうやって展開するか?」
でっす!!

■参加申し込みは以下の方法で!

WACATE-Magazine 編集部のチャット窓口

(magazine-chat@wacate.jp) に

「てすパナ参加希望」という件名で

以下の情報を添えてメールしてください。

- ・名前
- ・Skype 名
(検索で複数名リストアップされる場合に備え、メールアドレスも教えてネ)
- ・今回のテーマについて、チャットで語りたいこと
- ・今後テーマとしてとりあげてほしいこと
(できるだけ皆で議論できるようなテーマをお願いします)

皆さんのお申し込みをお待ちしております☆

今回のチャットルームオーナー: ぼんぼん

池田暁の

ミュージカルに恋して。

[第二十九幕] 当たり前のように観劇をしよう！

♪ たくさん観劇しよう！

早いもので、地震の発生から一月以上が立ちました。ひところの“異常”ともいふべき状況から、徐々にではありますが、街は落ち着きを取り戻し始めているような感覚があります。しかし、依然として“被災”という事実は我々の前に大きく横たわっています。

すでにいろいろな活動が取りざたされていますが、私はひとりひとりが以前に当たり前に行っていたことを、同じように当たり前に行うことが大切なのではないかと思っています。皆さん、まずは自分たちの生活を取り戻していきましょう。自粛や無理をすることは単なる自己満足にしか過ぎません。故に観劇ファンは周りに気にせず観劇を再開すれば良いと思います。

チケット代は義捐金や税金として被災地に届きます！ だから沢山観劇しましょう！グッズを買きましょう！CDやDVDを買きましょう！(^-^

* * *

♪ 久しぶりの宝塚

昨年からずーっと「うー宝塚行きたいよー」と言っていたのですが、TDD研究会で一緒にいるOさんとOさんのご紹介のAさんと3人で観劇することになりました。チケットは既に完売していたので、チケットショップを何件かあたりまして、無事チケットを確保。結果として良い席だったので当日はテンション上がりまくります。

演目は「愛のプレリュード」「La Paradis!!」。前者はお芝居、後者はショウです。久々の宝塚だったので感想はおいときますが、どちらも良かったです。それにしてもキラキラ感は流石ですねー。あと、動きの綺麗さが流石。

終演後は近くのドイツ料理屋で打ち上げ。とても盛り上がったのでした。

* * *

♪ レ・ミゼラブル 2011

楽しみにしていたレ・ミゼラブルが開演。早速観劇してきました。すでにもう何回観劇しているんだと言われそうですが、この演目はやめられないですねえ。(^-^; そういったわけで、4月はもともと予定していた1回に、急遽観劇することになった1回を加え、計二回の観劇となりました。

1回目は山口バルジャンと岡ジャペール。相変わらずの歌唱力ですけど、やはり岡さんの格好良さにしびれました。知念ファンティーヌはまだ歌いこなれていない印象。線の細さは良いですけど。そうそう中山エミリ@コゼットは失礼ながらまったく期待していなかったのですが、思ったより歌えていて驚きました。ルックスは問題がないし、そこそこ歌えるのでアリだなあと思いました。この日は全体的にレベルが高くて良かったです。とくに音響がバッチリでしたね。

2回目はムーンの人別所バルジャンと石川ジャペールの組み合わせ。GWで上京してきた母親が急に行きたいと言うので、飛行機がついてそのまま劇場へ。役者が変わると印象も随分変わります。1回目とは違った楽しみがそこにありますね。平田エポニーヌは平田愛咲が以前と比較して随分うまくなっていて驚きました。屋根の上のヴァイオリン弾き三女はまだまだといった印象だったのですが、伸び盛りという感じですね。この日もしっかり楽しみました！



<1回目の出演者>

* * *

♪ ウェディング・シンガー 打ち上げ公演

地方公演を経て東京に凱旋ということで、打ち上げ公演が開催されました。この日は入場の際にサイリウムが配られたりと、いつもと違う雰囲気。最初から最後まで大盛り上がりで、さながらライブのようでした。すっごく楽しかったですよ！

* * *

♪ 終わりに

5月は引き続きレ・ミゼラブル。帝劇100周年スペシャルキャストの回を観劇予定。それからDRAMATICA/ROMANTICA Wもチケット確保！<終>

おたべの

白

々景最影

■岡山、京都、彦根、琵琶湖ツアー

GW はいかがお過ごしでしょうか？ 人それぞれの楽しみ方があると思いますが、今回は岡山、京都、彦根、琵琶湖方面の旅行に行ってきましたのでその様子をレポートしていきます。

◆岡山の後楽園と岡山城

後楽園は日本三名園の一つで、この日はオオムラサキツツジが綺麗に咲いていました。

私は手入れの行き届いた水路と梅林に広い芝生がお気に入りです。また借景にビルディング群が入らないよう手入れが行き届いている点も素晴らしかったです。



◆倉敷の美観地区

白壁作りの通りに江戸時代の情緒が残る、古くて新しい町並みです。路地裏を覗けば隙間無くツツで囲まれた建物が並んでいたり、角を曲がる度にワクワクする散策にはもってこいの地域です。

また個性なおみやげ屋も多数営業しています。その中にはイ草で作った民芸品も多くあり、私は寝ゴザを買いました。ちなみに無農薬有機農法で栽培されたイ草を編んで作られた最高級寝ゴザは一畳四万五千元でした！



◆京都の流鏑馬(やぶさめ)

京都では主に洛中地域を見て回り、賀茂御祖神社(下鴨神社)で行われた流鏑馬(やぶさめ)を直に見物することが出来ました。

射手が全力で走る馬上で上半身を安定させたまま両手を手綱から放して矢を構え、「インヨオウイ」と遠くまで響くかけ声と共に矢を放ち、見事的中すると澄んだ打音と喝采が沸き起こる。昔もこんな風に賑やかだったのかなと歴史に想いを馳せる一時でした。



◆千本魚んま堂での狂言

千本魚んま堂引接寺にて、地元の有志が集まって狂言が上演されていました。その時上演していた演目は「二人大名」で、大筋は大名二人が百姓を捕まえてお供をさせようとするが、例えば大名が百姓に対して「後ろから付いてこい」と命令すると百姓は「突いてこい」と(わざと?)間違った解釈をして中々思い通りに行かない様が滑稽な演目でした。



また千本魚んま堂のご本尊は名前の通り閻魔法王ですが、閻魔法王の顔が怖いのは罪人に対して怒っているのではなく、罪を犯して地獄に落ちない様にわざと怖い顔で注意している優しさの現れなのだそうです。ちなみに賽銭箱の他に鈴の上に湯呑みが置いてあり、そちら上手くお賽銭が入ると願い事が叶うそうです。

◆彦根の玄宮園

借景に彦根城を臨む、池に船を浮かべて歌を詠みたくなる庭園です。大名の制作で侘び寂びと言うより豪華絢爛な庭園で、分かりやすい美しさでした。



◆彦根城

山を切り崩して **20年**かけて築城されたそうです。天守閣への入場はひこにゃんの影響か 90分待ちと言う状態でしたので諦めました。高台からの眺めは城下を一望できて素晴らしかったです。ちなみに**入城するには正門の他に搦め手(裏門)からでも可能**ですので、こちらから天守閣に向けて突撃するの也不错でしょう。



◆琵琶湖

初めは海にしか見えなかったのですが、近づいてみても波も立たずに潮の薫りも漂ってこない。ようやく湖なのだと思えるスケールの大きさでした。それでも目の前に広がる水平線は琵琶湖の一部でしかなく、地図を眺めて二度びっくりする大きさでした。



◆三井寺

琵琶湖は今回訪れるまで湖以外何も無い土地と勘違いしていましたが、実際には水と緑が豊かで神社仏閣も揃っているとても魅力的な土地でした。



◆延暦寺と庭園

延暦寺へと続く坂本駅からケーブル坂本駅への道は新緑が輝くとても気持ちの良い道で、道中様々な庭園やお寺があり行きも帰りも寄り道してしまいました。



庭園にも庭学と言うものがあるそうですが、**初心者の目では何の変哲もない庭石が実は鶴や亀に須弥山を現していたり**、庭石の半分以上が地中に埋まっているそうです。説明を聞きながら庭を眺めると、限られた空間の中で如何に趣のある庭を構築してきたのか、とても日本人らしい美学が感じられて感心してしまいました。



書いた人：おたべ

WACATE-Blog 出張所

■実行委員会キックオフ！

予定どおり開催することになった WACATE 2011 夏！4月某日、キックオフミーティングを実施してきました。



今回から新しい実行委員も加わり、しばらく来れなかったメンバーも加わり、更に熱いセッションをめざします！

■そして実行委員会合宿。

そして4月某日、キックオフで決めたことを議論したうえで、更に進めていくように合宿を開催しました！



とあるホテルにて会議をしながら一泊二日で缶詰です！

少し多めにお菓子を摂取しながら実行委員一同でガンガン進めます！

ガンガンいこうぜ！

参加者に楽しんでいただくために、皆真剣に取り組んでいます！

合宿中ではさまざまなことを考慮したうえであーでもない、こーでもないと真剣に議論されます。

参加者の視点、実行委員の伝えたいことを持って帰って欲しいこと…
たくさんのことを考えています。

■興味のあるひと募集中。

WACATE 実行委員会では常に新しい風を入れるべく、WACATE、または WACATE 実行委員会に興味を持った方を募集しております！

気になった方は是非、magazine@wacate.jpなどにご連絡をいただければ幸いです。

■次の WACATE に向けての近況

現在の次の WACATE に向けての活動は以下です。

◆実行委員会ネタ

- ・ WACATE 2011 夏実行委員会合宿やってます！
- ・ オンラインでも実行委員会やってるよ！
- ・ WACATE 2011 夏セッションを鋭意作成中！
- ・ WACATE 2011 夏残セッションの講師確定！

◆WACATE ネット

- ・ WACATE 2011 夏、受付開始！
<http://wacate.jp/2011/summer/entry.html>

◆その他活動ネタ

- ・ とあるメディアへの寄稿準備中！

…とこんなカンジです！

各セッションの作り込みも佳境です！

書いた人：コヤマン

開運

源太郎のソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…
日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	5月の運勢(5月5日~6月5日)
一白水星	S38/S47/S56/H2	今月は本来の「水」の特性が強くなるひと月となるであろう。勉強をするにはともて、良いひと月なり！ただし無理をすると事を破る。うまく行かない時は、反省することが肝要。誠意を持って当たれば道は開けるであろう！
二黒土星	S37/S46/S55/H1	二黒の特性である「大地」「母性」の特性が強くなるひと月となり。今月は、苦しい時もあるれば楽しい時もある。コツコツとすすめることで「縁」が紡がれるであろう。自分の器をわきまえて強欲にならぬことが吉なり。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	何事をするにも好機である。ただし年盤上で五黄殺を受けているので、吉凶大きく分かれるであろう。今月こそ大いに活躍する時だが、充分な計画と準備を怠らず、有事には持ち前の「スピード」が成功につながるであろう。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	同会している星と相剋なので「足元」が危ぶまれるであろう。派手な振り舞いで注目を浴びようとするとうまくいかないので注意すべし！努力を伴わずして夢が叶うこと無しと心得よ。「謙虚」な心を忘れず、「信用」を積み重ねることが吉なり！！
五黄土星	S34/S43/S52/S61	今月は無闇に動きまわらぬことが吉なり！！大きな成功を収めるには、充分な計画と準備が必要なり。運命の浮沈が激しい星、年盤中宮の星の影響で強く出るであろう。小事で一喜一憂せぬことが大きな成功につながるであろう！！
六白金星	S33/S42/S51/S60	「天」の性格から「頑固」「完璧主義」にならぬよう注意すべし！時には「人に任せること」も重要なり。決心・信念を曲げることはないが、「我(が)」を張りすぎは「凶」なり！本来の「父性」を持って事に当たるが吉なり！！
七赤金星	S32/S41/S50/S59	運気が好調なため勢いに任せて強引に事を進めがちだが、年盤で暗剣殺を受けているので大胆な行動には注意すべし！！「親しき仲にも礼儀あり」配慮を怠れば誤解や争いのタネとなるであろう！！「粘り強く」物事に当たることが吉なり！！
八白土星	S31/S40/S49/S58	「山」の特性が強くなる、どっしりと構えて過ごすことが吉なり！！同会している「水」の影響を受けて「酒」「色」に溺れ・流されると、「財」に関するトラブルになるので注意！行動を起こす前に、目上の意見に耳を傾けるべし！！
九紫火星	S30/S39/S48/S57	同会している星の影響で、見た目は順調だが中身が空虚になりがちなので、注意！派手なことにとらわれる事なかれ！「花」より「実」を取るが吉なり！！コツコツと「実績」と「信用」を積み重ねることが大きな力と成るであろう！！

月盤五黄土星

年盤七赤金星

月盤五黄土星				年盤七赤金星					
南				南					
東	4	9	2	西	東 五黄殺	6	2	4	西 暗剣殺
	3	5	7			5	7	9	
	8	1	6			1	3	8	
北				北					

◆今月のチェックポイント！

今月は「五黄土星」が中宮となり、浮沈(出入り)の激しい月です。
今年「七赤金星」中宮のため、「実(みのり)」に恵まれますが出入りの大きな一年とも言えます。
さらに「五黄土星」の特徴の一つである「極端」な運勢が強くなることとなります。
・・・「五黄土星」は、「帝王の星」とも「壊乱の星」とも呼ばれていますので注意しましょう・・・
今月は、無理に「動かないのが吉！」です。計画や準備に怠らないようにしましょう♪

★今月のラッキーテストアイテム

五黄は「極端」な星です。いきなりテストをしようと、行き当たりばったりでテストをするとうまくいきません。。こんな時には、テストの準備をしっかりしましょう♪
テスト仕様書について再確認しましょう！！・・・思い切ってビックバンテストにします？！

今月のSTAR★

■さあて皆さんお待ちかね!!!!

全国のスター☆ファンの皆様、お待たせいたしました!
「今月のSTAR☆」の復活です!!!
あまり語っても仕方がないので、スター☆の雄姿を写真でお届けします!

■荒ぶっておられます!!

合宿をやると、スター☆は大忙し。



真面目な話をしながら糖分を摂取します!
しかし...



PCの隣に置いたペプシは温まってしまっています!
スター☆が荒ぶるとペプシも荒ぶる!

それを飲んだスター☆は
更に荒ぶっておられます!アチョー!



夜が明けてもその昂ぶりは留まるどころを
知りません!
そして冷たいジュースをゲットしたスター☆。
サイダーの名前が「仮面サイダー」ということを
知りたくご満悦です。



記念撮影を!と荒ぶっておられました。

今月もスター☆は荒ぶっておられます!

書いた人: コヤマン

お知らせ

5月31日(火)に WACATE-Magazine vol.30 発行します！(たぶん)

今回は「直前！WACATE 2011 夏！」をお送りする予定です★

来たれ！投稿戦士！

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。
来たれ！投・稿・戦・士！！

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。
投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などを行いません。
単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。
公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了！な方は WACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。
折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
 - イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
 - オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - デザート情報(甘いものならなんでも。イカス！やつで。)
- などなど、お待ちしております♪



編集後記

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

いいんちょ★GW明けも観劇していくよ〜！！
きたー★GWはタスクが山積みでつづれそうです(T_T)レミゼ観劇できるといいなあ…。
よえだ★実行委員になっちゃったわ〜んっ♪♪♪
あたべ★庭で野菜を育て始めました。アイスパラントが美味です。
コヤマ★GWは楽しく過ごされましたかー？遊び足りな〜いっ！†
ぼんぼん★今回の演習はねえ…♪(ニヤリ)
あらかみ★GW明けは、ESEC・SODECが楽しみです♪IBMのH氏も自社ブースに登壇？！

★あくづい★

2011/05/10(tue)はっころ
WACATE-Magazineへんしゅろ
Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>